

自由開業制度の将来 / 部下を叱る技術 / 待合室のアメニティー向上術

CLINIC 今日と明日の開業医をサポートする  
——最新クリニック総合情報誌  
BAMBOO

ばんぼう

3 MAR.2009  
VOL.335  
定価1,020YEN

平成21年3月1日発行 通巻335号 毎月1回1日発行  
昭和58年2月14日第三種郵便物認可 ISSN・0912-8662

[特集] 開業医までコントロールされる!?

# 自由開業制度の 将来を大胆予測

[第2特集] 厳しく注意しても大きく育つ

## 部下を“叱る技術”教えます



THE FAMILY DOCTOR

川島孝一郎

仙台往診クリニック院長

[第3特集] 「待つ」時間を「楽しみ」に変える

## 待合室のアメニティー向上術

# コンセプトは「癒しの森」 アロマで居心地の良さを演出

くどうちあき脳神経外科クリニック ● 東京都大田区

ここでは、院長こだわりの工夫を施し、待合室を患者が楽しむことのできる空間に変えている。診療所の例を紹介する。待ち時間に対する患者のストレス軽減法として参考にしていただきたい。

## 変化のある待合室 アメニティーにこだわる

東京都大田区にあるくどうちあき脳神経外科クリニックは、MRIやCTなど充実した医療設備や、「医療は患者さんのためのもの」との信念に基づいた診療が好評を博している。「当院のコンセプトは、癒しの森です。ただ病気を治すのではなく、患者さんの悩みや不安にお応えして心と体の働きを治す、森のような癒しの場でありたいと考えています」と工藤千秋院長が話すように、同院では専門性の高い診療内容やスタッフのきめ細やかな接遇だけでなく、アメニ

ティーにこだわり、ハード・ソフトの両面で癒しを実現。診察室の天井に青空と天使が描かれているほか、院内の至るところに植物が置かれており、特に、工藤院長自らアイデアを出してつくったという待合室には患者を癒すための多くの工夫が施されている。院内に足を踏み入れると、大きな窓の明るい待合室が患者を迎え

てくれる。壁に描かれたフレスコ画「ちあきの森」や、窓を流れる水の音が、待っている人の心を和ませる。また、生け花を飾ったり、季節によってソファの色をオレンジからグリーンに変えるなど、ビルの中にあっても四季が感じ取れるように配慮されており、待合室の変化が定期的に通院する患者の目を楽ませている。

## アロマデューザーにより 広い空間でも香りが充満

さまざまな工夫が施された待合室のなかでも、特に工藤院長がこだわっているのがアロマ。

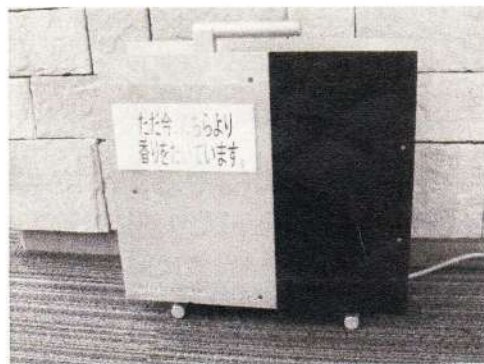
「私自身が日本アロマセラピー学



「当院のコンセプトは癒しの森。患者さんの悩みや不安を取り除いて心と体の働きを治す場でありたい」と話す工藤千秋院長

会の認定医ということもあり、当院ではアロマを取り入れています。医療機関を受診する人は多かれ少なかれ不安な気持ちをもっています。それを精油の力で軽減できたら、との思いで始めました。待合室にいる時から不安を取り除く治療が始まるという狙いがあるんです」

香りだけでなく、鎮静作用や消毒殺菌作用などの精油の多様な効果に期待しているという工藤院長。しかし、広い空間ではアロマが隅々まで行き渡らないため、同院では、広範囲にわたってアロマを拡散させるデューザー、アツ



アットアロマ株式会社が販売している「air aromarose」シリーズのポータブルタイプ。コンセントがあればどこでも使用可能

## 待合室のアメニティー向上術



待合室は大きな窓から差し込む光で明るい。生け花を飾るなど、ビルの中にあっても季節を感じ取れる工夫を施す

トアロマ株式会社の「aroscene」シリーズのポータブルタイプを導入した。「日本アロマセラピー学会の出店ブースで見た時から、アットアロマさんの商品の香りや性能に魅力を感じていました。アロマの最大拡散範囲が500㎡と広いので、当院が2007年に現在のビルに移転して待合室が広く

なったのをきつかけに「ディフューザーを使うことになりました。香りが待合室全体に広がり、とても満足しています」と、安藤弥生看護師長は選定の理由を語る。患者からは「入ってきた時からいい香りがする」「居るだけで癒される」などの声が多く聞かれるなど、評判は上々だ。

### 患者により異なる好み 香りの種類や強さに注意

「なるべく万人受けする柑橘系の香りを選んでいますが、まれに『香りが強い』という患者さんもいらっしゃいます」と工藤院長が指摘するように、食べ物と同じで香りにも好みがある。アロマの導入に際しては香りの種類や強さなどに注意が必要だ。

同院には工藤院長をはじめアロマセラピーに精通したスタッフがいますが、それでも同社の担当者として

相談しながらオイルを決定しているという。「医療機関での導入事例が多くあり、頼りになりました。

診療所のイメージや患者層、診療内容に応じて担当者がアドバイスをしてくれるので、アロマに詳しくなくても安心して導入できると思います。月1回メンテナンスを行ってくれることも魅力ですね」と、安藤看護師長は微笑む。

視覚だけでなく嗅覚にも働きかける工夫をしている同院。患者が心地良いと感じる空間づくりが、現代の待合室には求められている。

### 3月 発売予定 スタイリッシュな アロマディフューザー

アットアロマ株式会社(本社=東京都渋谷区、片岡郷代表取締役社長)は、ニューモデルのアロマディフューザー、「aroslum」を3月に発売する。

同商品は、圧縮空気を利用した「コールドディフュージョンシステム」を採用。加熱せず常温でオイルを拡散させるので、オイル本来の香りを楽しめる。また、間欠タイマーが内蔵されており、スイッチひとつでオイルを噴霧する秒数と噴霧を停止する秒数を設定でき、部屋の広さに合わせて5段階から選択できる仕組みとなっている。

オイルの最大拡散範囲は約400㎡。250mlサイズのボトルが取り付け可能で、頻繁にオイルを注ぎ足す必要がなく手間がかからないことも魅力。

カラーはシルバーとブラックの2色。スタイリッシュなデザインで、インテリア感覚で待合室に置ける。

